

小美玉市の歴史を知ろう 45

羽鳥館跡

は とりやかたあと

小美玉市の陸の玄関口である羽鳥駅。この付近には中世の時代、羽鳥館と呼ばれる方形居館がありました。

羽鳥館跡

羽鳥館跡は羽鳥駅南に近接し、もとは大（南側）、小（北側）二つの長方形の空堀と土塁をめぐらした複郭区域からなっていました。しかし明治28年、羽鳥駅と鉄道ができるのと昭和11年頃の開墾に伴い、大部分の堀は埋められてしまいました。現在は羽鳥駅南方、線路の西側にある山林の南側と東側に鍵

手形の堀跡（幅約6.7m）とその内側に幅約5.6m、高さ数十センチメートルの土塁がわずかに現存しています。

発掘調査

平成30年、館跡の北東端の地点で、宅地造成に伴う

発掘調査が実施されました。（写真1）羽鳥館跡初となつたこの調査では、幅4.8m以上、深さ最大1.4mの箱薬研堀を確認しました。堀跡からは土師質土器、炆器、陶器（古瀬戸か・写真2）、石製品（板碑素材か）などが出土しています。

また、今回検出した堀跡はほぼ南北に走っていたことから、この堀跡はかつて羽鳥駅北側区域に存在した堀の延長ではないかと考えられます。

羽鳥館主

ここで、羽鳥館主についてみていきたいと思います。『小田城家風記写』（天文2／1533年）に石岡城主小田蔵人正氏広の旗下一人に「五千貫羽鳥館主羽鳥刑部」と記述があり、『小

【語句解説】

方形居館

周囲を土塁と堀で囲まれた居館。領主屋敷などにみられる。

箱薬研堀

断面がV字形になる薬研堀と、底面が平らになる箱堀、両者の中間形態をもつ堀。

土塁

曲輪（本丸、二の丸など城内の区画）の周縁部や出入口の周囲に設けた防御のための土手。

田家家風記写』（永禄5／1562年）にも「羽鳥館主所領五千貫、小田一門之將、石岡城役番頭小田刑部治直、通称羽鳥と号す、…」とあります。このことから、羽鳥館主は小田刑部治直ではないかと考えられます。

羽鳥地区では現在のところ、羽鳥館跡以外の城館跡は確認されていませんが、中世の製鉄遺跡である五万窪遺跡や、中世の遺構や遺物が確認されている宮前遺跡など、羽鳥館跡と同時代の遺跡が所在しています。資料が少なく、謎が多い羽鳥館跡ですが、今回の調査ではわずかながらも当時の痕跡を確認することができました。



写真1 発掘調査



写真2
出土遺物（陶器）